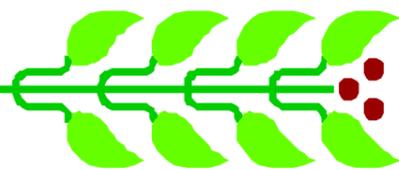


ガウディと美術館と図書館



眞鍋由比

本校では6校交歓会というものを聖公会の学校同士でやっています。今年は本校が当番でした。スポーツなどの交流会がメインですが、図書館担当者交流会もあったのです。ガウディ×井上雄彦展も見たかったし、美術館図書館というものをきちんと見たことがなかったので、交流会そのものを兵庫県立美術館ツアーとさせていただくことにしました。

若くて美人の司書さんが案内してくれた兵庫県立美術館の情報センターは美術館図書館としては西日本最大級！10万1千冊もの本があります（本校より2千冊も多い）！充実した蔵書に驚きました。同種の図書館で全国1位の東京国際美術館でも10万2千冊といていたから、まず国内トップクラスといていいでしょう。無料でAVライブラリー（映像ソフト）が視聴できたり、特別展開催中は8時まで延長されていたり、そしてもちろん閲覧は無料です！（コピーは有料）展覧会ごとに関連展示コーナーを作っている意欲的な図書館です（本館も毎月変えています）。風月堂からの寄贈本はラベルを貼らないでという希望から紙をはさむだけだったり、NDCで7類が9割以上だったりというユニークな図書館は、やはり美術関係の調べモノにはもってこい。美術関係の論文を書くこうとしている高3生にはぜひ勧めなくては！

展覧会ごとに客層が変わるので、情報センターの利用者も変わるそうです。たとえば堀文子展はちょっと年齢が高め、ガウディ×井上雄彦は学生さんなど若めの客層。ころころ利用者が変わる図書館って面白そうだなと思い、どんなレファレンスが多いのか、お聞きすると、の展覧会の図録、あるいはチラシがありますか（全国各地の美術館の図録がここにはあるのです、チラシも）、というのが一番多いそうです。（**チラシやハガキは複数ある場合はもらえるんですよ！**）展覧会の展示の解説について詳しく聞きたいというような専門的な詳細が必要なものは学芸員さんと連携して対応しているとのこと。そして何年から何年までの間、どの作品でもいいから誰と誰の作品を展示したことがあるか？といったすぐには答えられないレファレンスなども、時間をもらってきちんと調べてお答えするそうです。何が目的とした質問なのか、教えてくれたらこちらでも調べやすいのですが・・・とおっしゃっていました。いつごろどの画家の展示があったかを知る必要がある・・・小説でも書くんでしょうか？それとも事件のアリバイか何か？レファレンス質問自体に興味がありました。雑誌などは常連さんが見ているようですが。親切に解説していただいた情報センターを後にして、次はガウディ。

事前にチケットは購入していたものの、チケットを持っていても45分待ちというかなりの混雑でした。見るまではガウディの建築はかなり自己主張が強いという個性が過ぎてあまり好きではなかったのですが（井上雄彦好き）、その精密な設計図を見て繊細な誠実さに魅せられました。逆さまに輪っかのようものを吊り下げることができる曲線がいちばん自然で安定しているという「フニクラ(Funikura)による応力構造の実験」の様子も展示されていて面白かった。この感覚がやがてサグラダファミリアにつながっていくんですね。家具のデザインなども手がけていて、ガウディと井上の両者がつくったドアの取っ手が最後にあったのですが、ガウディのものは握っていてとても心地よかったです。人のことを真剣に考慮して作り上げている、と感じられました。そしてサグラダ・ファミリアの栄光のファザードには各国語で「我らを悪より救いたまえ」と刻まれているのですが、日本語の文字を書いたのが井上雄彦だそうです。この一節、懇親会での主の祈りにでてきたので驚きました。

本校の美術書コーナーも兵庫県立美術館ほどではありませんが、かなり充実しています。その礎をつくった椿昇先生が『シェルターからコックピットへ飛び立つスキマの設計学』という本を出版されました。うちの図書館も載っています。

それから美術館での作品だけではない、素敵な出会いを描いたマンガ『千年の翼、百年の夢』も入りました。ひとときの夢をどうぞ。一番会いたい人に。

